

# 立山&剣岳山行報告

【山行日】2017年 7月 21~23日(金~日)

【集 合】岩舟支所P AM 2:00

【費 用】マイカー1台 : 29,200円

【メンバー】CL:鈴木 石川、岩淵、香川、鶴見、  
松館、渡辺

21日 晴れ 室堂から雄山に登り、真砂岳から  
別山まで縦走し剣沢まで下って剣山荘へ

岩舟支所 P2:00 = 立山駅 P6:20/7:20++ 室堂

8:10/8:40~一ノ越 9:35/9:50~雄山 10:50/11:15~

大汝山 11:35/12:05~別山 13:50~剣御前小屋

14:10/14:20~剣山荘 15:35



いよいよ待ちに待った夏山ビッグ山行が始まった。まず第一弾はアンケートでリクエストが多かった剣岳を計画した。1日目は立山連峰を縦走し、雄山から別山までの稜線はまさに雲上のスカイラインだ。

立山駅に着きケーブルカーの乗車券を購入するが、7時発は満席で7時20分発のケーブルカーに乗り美女平に向かった。美女平でハイブリットバスに乗り換え、弥陀ヶ原や薬師岳の風景を楽しみながらバスに揺られ室堂に着く。バスターミナルから階段を登り、玉殿湧水がある広場に出てストレッチを行う。



せっかくだから持ってきた水を、玉殿湧水に入れ替えて出発する。広くなだらかな石畳の道を進み、室堂山荘を過ぎたあたりから傾斜がきつくなる。途中、雪渓を横切りながら登り、振り返ると室堂平が一望でき残雪とハイマツのコントラストが素晴らしい。大勢の登山者の後について登り、一時間足らずで一ノ越に着く。一ノ越は広い稜線上の鞍部で、後立山連峰や槍・穂

高連峰、剣岳や大日岳が見える好展望台だ。ベンチやトイレがあり、眺望を楽しみながらゆっくり休憩をとる。一ノ越から雄山までが、今日のコースで一番つらい登りだ。

のっけから滑りやすいザレ状の急登で、トレイルがいく筋にも分かれている。

出来るだけしっかりしたトレイルを選びながら、ジグザグに登って行く。一步一步ゆっくりと登り、少し平

らになった四ノ越で休憩をとる。広場の一角に祠があり、展望も良いので休憩にはうってつけの場所だ。

四ノ越から少し登って行くと、小学生の団体が登っていて渋滞になっていた。しばらく後に付いてゆっくり登ったが、途中で完全に動かなくなり待たされる。

引率の方に「縦走なので先に行かせてください」と断り、団体の前に出させてもらった。大小の岩塊に

囲まれたガレ状の崩れやすい登山道を登ると、頂上社務所のある頂上広場の一角に着く。皆さん初めてなので、社務所前のベンチにザックを置き、雄

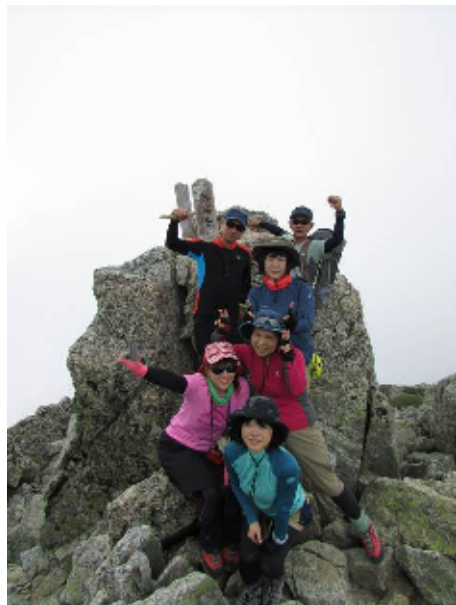
山の本当の山頂である峰本社でお祓いを受ける。丁度我々の前でいっぱいになり、次回になり10分

待たされ20分掛かってしまった。お祓いを受けたらトイレを済ませ、記念写真を撮り別山への縦走路を

進む。



峯本社の岩峰を左から回り込むように進み。滑りやすいザレや岩の上を歩いて行く。稜線の室堂側を終始歩いて行き、大岩が積み重なった道に入ると大汝山直下に着く。右に大きい岩と岩の間を登ると、



3015mの最高点の岩峰に着く。後立山連峰の稜線がほとんど見渡せる好展望台だが、あいにくガスで眺望は得られなかった。登山道に戻って少し進むと、大汝休憩所が建っている。休憩所の先の平らな場所でランチタイムとする。本日の山ご飯は味噌ラーメン。ネギとキノコがたっぷり入ったラーメンを美味しく戴く。ここからが我輩お勧めのコースだが、あいにくガスで視界が悪く景色はいまいちだった。

それでも時折ガスが晴れると、室堂側の視界が開け室堂平の雪模様が素晴らしい。富士の折立から一気に200m近く下り、真砂岳への鞍部に降りる。鞍部からは、のびやかな稜線が真砂岳まで続く。

真砂岳で小休憩し、別山へ向かう。稜線が狭くなってきて、岩稜になり室堂側が切れ落ちた道を進む。

途中トラバース道があるが、残雪があると危険なので山頂への道を進む。岩礫や岩屑が散乱した急坂を登り、ハイマツとお花畑

の道に変わると別山山頂に着く。山頂は広く、大きな祠が祀られており祠の前で休憩を取る。

ここから剣御前小屋が建つ別山乗越へ下って行く。

砂礫の稜線を緩く下り、小さな鞍部に出たら直進し小さなピークに出ると剣御前小屋が見えてくる。ガレ場のトレイルをジグザグに下ると、小屋の裏手に出る。小屋の前で休憩し、トイレを借りてエネルギーを補給する。ここから剣山荘へ直接下る道は、雪が多く通行禁止になっていた。右に別山の北西山腹を右に巻いて下って行く。やがて剣沢源頭の雪渓を下るようになり、ガスが晴れ正面に剣岳がドーンと聳えている。



絶景を見ながら雪渓を下り、剣沢キャンプ場を通り剣沢小屋の手前から左に降りて行く。雪渓を3ヶ所トラバースし、お花畑とハイマツ帯を過ぎて、小さな池塘が2つほど現れると剣山荘に着く。受付を済ませ、部屋に案内され皆さんホッとした様子。早速交代でシャワーを浴び、荷物を整理したら外のベンチで小宴会が始まる。すっかり晴れ渡り、絶景を見ながら美味しくお酒が進んだ。

**22日 晴れ 剣山荘から剣岳をピストンし、剣沢から剣御前小屋経由し雷鳥沢から雷鳥荘へ**  
**剣山荘 4:00～一服剣 4:30～前剣 5:20/5:40～カニノコバイ 6:40～剣岳山頂 7:20/7:40～カニノコバイ**  
**8:20～前剣 9:10～剣山荘 10:30/11:30～剣御前小屋 13:00/13:10～雷鳥荘 14:30**



朝3時に起床し、荷物を纏めてから食堂で朝食をいただく。食堂には味噌汁とお茶が用意され、早朝出発者に便宜を図ってくれありがたい。3時50分に小屋の前に集合し、ストレッチを済ませて出発する。

小屋の左側から登山道に入り、ヘッドランプを頼りに登り始める。露岩のクサリ場や雪渓のトラバースがあり、慣れない人には辛い登りだ。稜線に出てザレた滑りやすい道から、岩屑が散乱した中を登るようになると一服剣に出る。ここから一旦下り、着いた鞍部が武蔵のコル。岩礫が積み重なった馬ノ背状の稜線を登り、はるか頭上高くに見える大岩を目指し直上する。

次第に傾斜が増し、不安定な浮石や岩が多くなっていくので、落石を起こさぬよう慎重に登って行く。大岩直下で登山道はルンゼ状の凹角の中を登るようになる。大岩から鎖が4つ連続し、登り切ると稜線に出る。少し先で稜線を巻くように進み、ルートが2分する。登りは右に登り前剣山頂に登る道を進む。



前剣山頂で休憩し、朝食を食べてない人はここで朝食を摂る。前剣からは、これから目指す剣岳が巨大な岩の塊となって立ちはだかっていた。

「エ～あれを登るの？どうやって登るの？」と不安そう。「大丈夫、クサリやペンキマークがあるから、三点支持で登れば問題ないから」と落ち着かせる。前剣から一旦下り、4mの鉄のブリッジを渡ると小さな岩峰にぶつかる。20mのクサリで岩峰を右から巻いて通過するが、かなりの高度感があり、緊張するトラバースだ。続いて小尾根を最初は右に、直ぐに左に下って狭い鞍部に降り立つ。通称「前剣ノ門」と呼ばれる場所だ。門からは比較的安定した登

山道が続き、ジグザグに急登して稜線上の小ピークに一度立つ。ここから50mくらいでケルンのある小さな広場に着く。この小広場の先から頂上までは、険しい岩峰が連続し、一時も気を抜けない剣岳の核心部だ。まず、左側の東大谷側がすっぱり切れ落ちた稜線を20mほど進み、平蔵ノ頭手前で東大谷側の巻道に入る。窓のような狭いコルに出て、続く岩峰の登りは右の鎖に頼って右へ斜上する。岩峰からの下降はスラブ状の岩場で、長いクサリで降りて行く。下りついた小鞍部から、平蔵谷側の岩棚を進む。すぐにクサリ場で、登り専用の右側の鎖を登って行く。登り切ってコルに出て、岩棚を下り気味に進むと平蔵ノコルに着く。ここから右に登り専用の道を進み、雪渓の雪と岩の間をすり抜けて進むと本峰への難関カニノタテバイが待っている。ガイドにアンザイレンで確保された先行者が難行しており、少し待っているとM喜ちゃんが「ここで待っていていいですか？」と聞く。「下りはここを通らないから駄目です」と返し、「ホールドとスタンスはしっかりあるから、落ち着いて登れば大丈夫」と言って登り始める。カニのタテバイを無事通過し、小尾根を左に回り込みルンゼ状の岩場を



登ると、下降ルートのカニのヨコバイの分岐だ。剣沢側の斜面を50mほど登り、主稜線に出るとほんのひと登りで祠のある山頂に着く。頂上に着き、皆と握手して登頂の喜びを分かち合う。山頂は他に何も遮るものが無く、360度の大展望が広がっていた。ハッ峰の切り立った岩峰群や、剣沢のカール地形、急峻な早月尾根の展望が印象的だ。さらに遠くには白馬岳から五竜・鹿島槍ヶ岳等、後立山連峰の山々が望めた。皆さん眺望を楽しみながら、お互いに写真を撮り合い至福のひと時を過ごした。ミカンとかりんとうを食べ、エネルギーを補給したら下山する。カニのヨコバイ分岐まで来た道に戻り、分岐から右に下り専用の登山道になり、直ぐにカニ



ノヨコバイの鎖場になる。最初の一步の足場が遠く見えにくい為、難しく感じるが足場が赤ペンキでバツ

チリ塗られ解りやすくなっていた。次の人に足場を教えるように指示し降りて行く。  
ところがこの先の鎖場でM喜ちゃんが降りられないと泣きが入る。



細い岩棚をへつる横の鎖から、垂直に降りる鎖に移る場所が降りられないと言う。「横の鎖に掴まりゆっくり腰を下ろして、縦の鎖を掴めば降りられる」と指示し何とか降りることが出来た。最後は長いハシゴを下りるとカニノヨコバイからの悪場が終わる。平蔵ノコルの安全な場所で休憩し、菓子や水を補給しトイレを済ませる。続く岩峰群の通過は、まず平蔵谷の岩棚を行き、直ぐにクサリ場となり、下り専用のクサリで小コルに立ち15mのクサリを登る。登りついた岩峰からの下りもクサリを頼って降りる。

東大谷側が切れ落ちていて高度感があるが、スタン

スやホールドが豊富にあり、さほど難しくはない。

下り着いたら、平蔵ノ頭を東大谷側から巻いて通過する。この先は前剣の門まで来た道を慎重に下り、前剣の門の先で下り専用のトラバース道で前剣の先まで行ける。

ここからは登って来た道を下るが、大岩を下るまでは鎖が連続し慎重に降りて行く。大岩を下りた先で、健脚組の4人が先行して下ることにする。残った3人は、大岩から先のガレ場は事故が多発しているの、ゆっくり慎重に下ることにする。

武蔵のコルまで下りれば一安心、休憩し水を飲んでから一服剣に登り返す。一服剣山頂で最後の休憩を取り、30分下ると剣山荘に着いた。山荘でカレーや中華丼の昼食をいただき、置いて行った荷物をザックに入れ下山する。途中、剣沢小屋で『剣人』Tシャツを購入し、昨日降りて来た道を登り剣御前小屋に着く。ここから雷鳥坂を下って雷鳥沢に降り、20分登り返して今宵の宿雷鳥荘に着いた。温泉に浸かってゆっくり疲れを癒し、宿の前のベンチで宴会が始まる。雄大な大日岳や別山、雷鳥沢を眺めながら飲む冷たい生ビールとワインは、格別に美味しく感じられた。難攻不落の剣岳を制覇した満足感で、皆さん生き生きした顔で美酒を味わい、話が尽きることなく大いに盛り上がっていた。

**23日 雨 雷鳥荘から室堂ターミナルへ移動し、立山駅まで下り車に乗り換え岩舟支所Pへ。**

**雷鳥荘7:00～室堂ターミナル 7:20/7:50+++立山駅P9:10/9:30=東部湯の丸 SA12:15/12:45=**

**岩舟支所 P14:15**

朝5時に起きると、雨の音が聞こえていた。窓の外を見ると、雨がかなり強く降っている。「今日は室堂ターミナルまでの歩きだし、そのうち止むだろう」と気楽に考え、温泉に入りに行く。温泉にゆっくり浸かり、伸びた髪を剃ってから部屋に戻る。6時5分前に部屋を出て、食堂の前に並ぶ。すでに食堂前に大勢並んでおり、しばらく待たされる。朝食はバイキングで、お盆に皿を載せサラダや卵焼き、焼き魚等好きなものを皿に取りテーブルに付きいただく。テーブルも全部空いている場所は無く、空いている席に



男女分かれて相席で座る。雷鳥荘は山小屋ではないが、山でこれだけの朝食が食べられれば大満足である。部屋に戻って出発の準備を整え、レインウエアーを着て出発する。



雷鳥荘を出た時は雨がほとんど降って無かったが、リンドウ池を過ぎたあたりから雨脚が強くなり、石段の登りが辛くなる。みくりが池温泉までは結構登るので、風雨が強い中の登りはとてもつらかった。

みくりが池の展望台で写真を撮ろうと思ったが、団体客が占領していたのでパスして室堂に向かう。

室堂ターミナルに着き、待合室で濡れたレインウエアーを脱いでザックに入れてバスの改札口に並ぶ。

始発は8時発だが、乗客がバス1台分並ぶと臨時便が出るようだ。改札が始まりバスに乗り始めたが、丁度我々の前で満員となり止められた。「次は何分です

か？」と聞くと、「人数が集まったら改札します」との事。10分待つと改札が始まり、バスに乗り込み美女平に向かう。美女平からケーブルカーに乗り換え、立山駅に着き売店でお土産を購入する。

我輩が雨の中走って車を取って来て、皆の荷物を積み込み出発する。

昼食は有磯海SAで「海鮮丼」を食べる予定だったが、時間が早いのでスルーして名立谷浜SAでトイレ休憩を取る。昼食のSAを聞くと、「まだお腹が空かないので、12時過ぎても良い」との返事で、東部湯の丸SAで食べることにする。東部湯の丸SAで昼食を食べ、お土産を買ったら岩舟支所に向かう。

上信越道と北関東道は順調に走り、予定より早く岩舟支所に到着出来、夏山ビッグ山行第一弾は無事終了した。